

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

三好市立王地小学校
「学力向上実行プラン」

- 互いの意見を認め合い、自らの考えを深められる授業の実践
- 学んだことを進んで表現し、活用できる授業の実践

学力向上推進員	委員
平尾規代美	校長:喜多 佳英 教頭:中本 由佳 教務主任:小笠原 誠 研修主任:平尾 規代美 特別支援コーディネーター:三木 和子 伊良原 一輝 吉田 千寿 友成 由布子 山下 奏 三好 智江

校長
喜多 佳英

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○読書や読み聞かせに好んで取り組むことができた。学習のめあてやまとめをノートに記録し、学びを確かめることが概ねできた。タブレット端末を活用したドリル学習には意欲的に取り組んでいる。 ●学習した漢字や語彙を用いて文章を書いたり、書かれている内容を正しく読み取ったりすることが苦手の児童や基礎的な計算力が十分身につけていない児童がいる。	・基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。 ・語彙を豊かにし、相手を意識した話し方や聞き方が、学年に応じてできる。 ・学習のめあてやまとめをノートに記録し、学びを確かめることができる。	・朝の活動時に、漢字や計算のドリル学習に加えて前学年の復習を反復的に取り入れ、個に応じた課題等を用意する。 ・タブレット端末のより効果的な活用方法を取り入れ、有効活用する。 ・板書やノート指導を充実させるとともに、新聞や様々な分野の本に触れられるなど、言語環境を整える。 ・異学年交流や集会活動の際に聞き手を意識して話したり、聞いた感想を書いたり話したりする活動の機会を設ける。		・個に応じた課題等を設定し、繰り返し学習した結果、基礎的な学力の伸びが見られた。また、個々の課題としてタブレット端末を活用できた点もよかった。 ・ノート指導と言語環境の充実に関しては、継続課題である。 ・聞き手を意識した活動や聞き取りの機会に関しては、活動の充実や継続の必要がある。	・タブレット端末のより効果的な利用方法を探求する。 ・言語環境の充実させるために、配布される子ども新聞を毎週一回自主学習ノートに貼り読み取り等に利用するなど、継続して活動できるようにする。 ・愛校班活動や行事・集会等を、相手意識を持って発表したり聞き取ったりする機会と捉え、取り組みの前後を大切に活動する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話型を活用するなどし、「話す力」の伸びが見られる。 ●根拠を明らかにして自分の考えを述べたり、書いたりすることが苦手の児童が多い。聞いたことを読み取った中から必要な情報を取捨選択する力が十分育っていない。また、相手の意図を正しく理解しながら「聞く事」に課題がある児童もいる。	・自分の考えや意見を、根拠や理由を明確にして話したり書いたりできる。 ・相手の意図を考えながら話を聞き、それに対する自分の意見や考えを述べるができる。 ・様々な形態の文章を読み、必要な情報を得ることができる。	・「聴き方名人」「声のものさし」を示し、相手の話を聞く姿勢や態度、発表の声の大きさを意識させる。発表や記述の型を提示する。 ・普段から、発表の中に根拠や理由を述べたり書いたりする場面を積極的に設定する。(1日2回以上) ・自分の考えを整理して伝えるために、ホワイトボードやICT機器を効果的に取り入れる。 ・新聞や長文などに触れる機会を意図的に設定する。		・行事や集会等の機会を利用し、相手を意識して話したり聞いたりする活動を設けることができた。 ・理由を大切に発言を求めように取り組む等してきたが、説得力のある内容については十分ではなかった。 ・ICT機器を活用し、思考や発表の段階や順序等を可視化することに活用できた。	・根拠や理由を述べたり書いたりできるために必要な語彙力を含み、コミュニケーション能力を育てるための手立てを検討する。 ・長文や様々な形態の文章に、意図的に触れさせるための方策を考える。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いて学習に取り組む、宿題や与えられた課題に、まじめに取り組む児童が多い。 ●自分から課題を見つけて取り組むことや、根気強く取り組むことが苦手の児童がいる。	・望ましい学習習慣・学習規律を身につけ、自分から考え、進んで学習したり活動したりすることができる。 ・自分に応じた学習課題を見つけ、根気強く取り組むことができる。	・めあてを提示し、見通しをもたせて学習に取り組ませ、めあてに対する振り返りの時間を確保し、課題を自覚したり次への意欲をもたせたりする。 ・個に応じた自主学習の内容を示して評価するとともに、手本を提示する。 ・家庭学習の手引きを利用し、保護者と共通理解を図る。		・「めあて」から「まとめ」までの学習課程をパターン化し、同じ流れで授業が展開されるように意識してきた。 ・家庭学習の手引きを再確認し取り組んだが、成果には個人差が見られた。より具体的な提示の仕方を考える必要がある。	・授業の流れの見直しと学習(授業)パターンを確立する。 ・ノートに手引きとともに参考となるノートのコピー等を貼るなど、基本的な部分から見直す。

令和5年度 学力向上ロードマップ

